

# 平成28年度年度末評価



広島県立加計高等学校

## 目 次

- |   |                             |   |   |
|---|-----------------------------|---|---|
| 1 | 平成28年度自己評価シート<br>(年度末評価)    | … | 1 |
| 2 | 平成28年度自己評価シート<br>(年度末評価まとめ) | … | 4 |
| 3 | 平成28年度学校関係者評価シート<br>(年度末評価) | … | 5 |

平成28年度自己評価シート(年度末評価)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	---

学校経営目標							
達成目標		本年度行動計画		評価	理由	担当部等	
1 生徒一人一人に生きる力を育む学校							
① 確かな学力を育成し、進路目標を実現できるよう支援する。							
<p>■キャリア教育を推進し明確な進路目標を掲げさせるとともに、基礎・基本を徹底し進路目標を実現できる学力を身に付けさせる。</p>		<p>ア 学年ごと及び全校での進路検討会議等を通して情報を共有し、個別指導を徹底する。 イ 講師を招聘して、キャリア教育に関する講演会等を開催する。 ウ 国語、数学、英語を中心に少人数・習熟度別クラス編成の授業を実施する。 エ 計画的に宿題・課題を提供するとともに、小テストやノート点検等で個々の生徒の学習状況を確認して指導する。</p>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員での進路検討会議を実施し、3年生全員に個別受験指導担当者を割り当てて指導した。</li> <li>起業をテーマに9月に進路講演会を開催し、3月にも卒業生進路体験発表会・JST進路講話会を実施した。</li> <li>進路通信を通して、必要な情報を適宜発信した。</li> <li>国語、数学、英語の授業を中心に、少人数習熟度別クラス編成の授業を実施し、生徒の学力を伸ばすため、きめ細かい指導を行った。</li> <li>計画的に宿題・課題を提供するとともに、英数国の小テストや定期考査ごとのノート点検等を行い、個々の生徒の学習状況を確認して指導を行った。</li> </ul>	進路指導 教務 教科	
<p>■学習環境を整え、自ら学ぶ意欲と学習習慣を身に付けさせる。</p>		<p>ア 進路対策講座、夏季・冬季補習、学習合宿等を実施する。 イ 全員模試を年3回以上実施する。 ウ 定期考査ごとに居残り学習会を行う。 エ 家庭学習時間調査を年6回実施し、課題のある生徒には個別指導を行う。</p>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季補習を夏季休業中全日程で、夏季集中セミナーを就職及び進学希望者ともに実施した。また、3校合同学習合宿を実施した。その他冬季進学補習に加え、今年度は春季補習も実施予定である。</li> <li>全員模試を計画どおり実施した。</li> <li>推薦・AO対策に個別指導を実施した。</li> <li>居残り学習会を計画どおり実施し、学習時間の増加につなげた。</li> <li>家庭学習時間調査を計画どおり実施し、家庭学習時間がとれていない生徒に対しては、懇談や面接時に指導を行った。</li> </ul>	進路指導 教務 担任	
② 心と体を鍛え「誠実・自主・気魄」を涵養する。							
<p>■規範意識等を高め規律ある学校生活を確立させるとともに、教育相談等を通して生徒一人一人が安定した高校生活を確立できるよう支援する。</p>		<p>ア 月ごとの全校集会で服装・頭髪検査を実施し、違反者等に対して事後指導を行う。 イ 授業規律を確立するために、年度当初に「加計高授業規律」を決めて全員で徹底する。 ウ 課題に対して早期に対応できるよう、生徒面接を充実するとともに、スクールカウンセラーの活用促進を図る。 エ 学期ごとに生徒連絡会議を持ち、生徒に関する情報を共有し、組織としての対応を強化する。</p>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回、全校集会で服装頭髪検査・身だしなみに対する意識啓発を行ったことにより生徒の意識が高まった。</li> <li>毎朝、登校指導を行い、日々の生徒の様子について、教職員間で情報交換を行い早期の対応を行うことができた。</li> <li>授業規律を確立するため、年度当初に「加計高授業規律」を決定し教室掲示するとともに継続的な指導を行った。</li> <li>「加計高授業規律」に基づき、挨拶の徹底を図り概ね定着することができた。</li> <li>日常の生徒への声かけを大切にし、教員から意識的に声をかけることを積極的に行った。</li> <li>学期始めに、学年ごとの個人面接を行い、生徒理解に努めた。</li> <li>生徒指導部が中心となり、教員間の情報交換・連携を密にし、組織的な対応を常に意識して行った。</li> <li>職員会議等において、生徒指導研修を行い、生徒理解に努めた。</li> </ul>	生徒指導 教務 担任	

<p>■部活動や生徒会活動等の活性化を図り、集団の中で責任ある行動をとる態度を育成する。</p>	<p>ア 生徒会執行部や各部部員による新入生や中学生に対する啓発活動を強化する。 イ 主な生徒会行事ごとに事後アンケートを実施し、次年度の改善点を整理する。</p>	A	<p>・生徒が主体となり、自ら考えて魅力的な部活動にするため、教師主体ではなくアドバイス・指導の工夫に努めた。 ・中学生の部活動体験などを開催し、PRを行った。 ・行事ごとの課題の意見交換を行い、改善点の整理を行うなど、生徒会の活性化を図ることができた。</p>	生徒指導
<p>■体力の向上を図り、健康を維持し、気魄を涵養する。</p>	<p>ア 体育の授業で補強運動を行う。 イ 体育の授業全体での運動量を増やす。 ウ 体育の授業で柔軟性を向上させるためのストレッチを行う。</p>	B	<p>・授業開始時に体力トレーニングを行い、体力向上の意識啓発を行った。 ・運動に対する個人の意識が高まると共に体力の向上が見られ、県教委から体力づくり奨励賞を受賞することができた。</p>	保健体育
<p>③ 国際的視野を広げ、コミュニケーション能力を身に付けさせる。</p>				
<p>■海外の姉妹校等との国際交流活動に積極的に取り組み、様々な価値観を知り、自己と他者とをともに大切にすることを育成する。</p>	<p>ア 海外の姉妹校等との国際交流活動を積極的に実施する。 イ 本校及び地域の良さを海外に情報発信する。</p>	A	<p>・6月に米国ハワイ州のホノカア高校の生徒3名、引率教諭1名が来校し、互いの文化等について紹介するなど、交流を深めた。また、8月には本校から2名の生徒がホノカア高校に短期留学をし、安芸太田町や加計高校のことを紹介した。 ・10月には、韓国の姉妹校からの訪問団を受け入れ、寮生、国際交流講座選択者を中心に交流を深めた。</p>	教務

【評価結果の分析】

・キャリア教育を推進し、明確な目標を掲げさせ、基礎・基本を徹底させ、進路目標を実現できる学力を身に付けさせるための取組を計画的に進めたが、個々の生徒の進路実現を一層図るため、学習習慣を身に付けさせる指導を継続するとともに、これまでの個別受験指導を、より一層充実させる必要がある。

【今後の改善方策】

・より多くの生徒の進路実現を図るため、早い時期から学習習慣を身に付けさせる指導を継続するとともに、これまでの個別受験指導をより一層充実させる。

<p>2 保護者・地域から信頼される学校</p>				
<p>① 教職員の指導力や職務遂行能力の向上を図る。</p>				
<p>■「授業づくり」等を進め、指導力の向上を図る。</p>	<p>ア 各学期に、シラバスに基づいた説明を行う。 イ 外部講師を招聘しての授業づくり研修及び公開授業等を年複数回実施する。</p>	A	<p>・年度初めと必要に応じた時機にそれぞれの授業者から生徒にシラバスに基づいた説明を行った。 ・外部講師を招いて、今年度「協調学習」を取り入れた授業づくり研修を11月と1月に実施する計画である。また、2学期始めに校内での相互授業観察・意見交換を計画どおり実施し、研修を進めた。</p>	教務
<p>② 危機管理を徹底する。</p>				
<p>■不祥事防止意識を高揚し不祥事ゼロを継続するとともに、安全点検を徹底し危険箇所等を早期に見出し整備する。</p>	<p>ア 年度当初に、服務規律に係る全体研修を企画・実施する。 イ 「不祥事防止チェックリスト」を活用した面談を年2回実施する。 ウ 安全点検を年3回以上実施する。</p>	A	<p>・年度当初に服務規律に係る全体研修を教務部、生徒指導部、進路指導部、事務部が企画し実施した。 ・「不祥事防止チェックリスト」を活用した面談及び安全点検を計画的に実施した。</p>	管理職事務室

【評価結果の分析】

・日常的に不祥事防止の話題に触れ、誰にでも起こす危険性があるという認識に立つよう促すとともに、年度当初に、服務規律に係る研修会を企画し、実施したことにより、教職員の不祥事防止意識を高揚し、不祥事ゼロを継続することができた。

【今後の改善方策】

・「協調学習」の研究授業を全教職員が1回実施できるようにする。

3 地域とともに歩む学校

① 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

<p>■保・幼・小・中・高・大連携を推進し、地域の人材育成に貢献する</p>	<p>ア 地元中学校とは学期に3回以上、近隣中学校とは学期に1回以上連携を行う。 イ 子ども園及び小学校との連携を強化する。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問による連携を実施した。</li> <li>・地元小・中学校及び地元商工会との連携によるキャリア・スタート・ウィーク&amp;インターンシップ、小・中・高合同による清掃ボランティア活動、地元子ども園での保育実習、小学校や中学校からの高校訪問受け入れなどを実施し、地域の人材育成を進めた。</li> </ul>	<p>教務管理職</p>
<p>■積極的に広報活動を行い、学校の魅力を発信し、地域内外の生徒・保護者にとって「行きたい学校」「行かせたい学校」となる。</p>	<p>ア 学校の魅力づくりに生徒自らが主体的に加わる。 イ 広報誌「五輪の峰」を月ごとに作成し発行する。 ウ ホームページを常に更新し、新しい情報を発信する。 エ マスコミに積極的に情報提供し、取材を働きかける。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らが学校行事、部活動、地域行事、ボランティア活動に積極的に取り組み、学校の魅力づくりに参加した。</li> <li>・「五輪の峰」を毎月発行し、近隣の小中学校、関係機関及び安芸太田町内全戸に配布した。</li> <li>・今年度も、ホームページをリニューアルし、より閲覧しやすいレイアウトにした。また、頻繁に更新し、常に新しい情報を発信した。</li> </ul>	<p>教務各部管理職</p>

② 地域の「もの・ひと・こと」に学び、地域の発展に寄与する。

<p>■外部指導者を招聘するなどして地域の教育力を生かした学校教育を展開するとともに、ボランティア活動等を通して積極的な地域貢献を行っていく。</p>	<p>ア 総合的な学習の時間や学校設定科目等の授業に、外部講師を招聘する。 イ 学校行事等に地域の人材を招聘する。 ウ 生徒会活動の一環として、地域行事への参加や環境美化等のボランティア活動を推進する。 エ 専門コースの学習の一環として、子どもや高齢者を対象とするボランティア活動を推進する。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間や学校設定科目等の学習において、外部講師を招聘し、専門的な指導をってもらうことで、生徒に実習を通して学ばせ、知識を深めさせた。</li> <li>・文化祭に向け、地域の指導者に来校していただき、ゲートボールの指導を受けることができた。</li> <li>・毎月1回の校外清掃ボランティア活動を積極的に実施した。</li> <li>・校内にボランティア情報掲示板を設置し、募集から実施までの流れが定着してきた。</li> </ul>	<p>教務生徒指導教科</p>
---	--	----------	--	-----------------

【評価結果の分析】

- ・ボランティア活動への積極的な参加や献血活動への協力により、地域と連携し、開かれた学校づくりを推進することができた。
- ・総合的な学習の時間(探究活動の時間)等において、地域の人材に直接指導をしていただき、子供たちの学びの質を高めることができた。
- ・新聞やテレビ等のマスコミにより多く取り上げられることにより、本校の取組を理解していただき、保護者を始め、関係者から、高い評価を得ることができた。

【今後の改善方策】

- ・学習、学校行事、部活動、ボランティア活動等に生徒自らが主体的に参加し、学校の魅力づくりに生徒自身も意欲的である。広報誌「五輪の峰」の記事を利用して、本校生徒の頑張っている姿を発信し、地域の理解を得るようにする。

## 平成28年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	---

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

- ・キャリア教育を推進し、明確な目標を掲げさせ、基礎・基本を徹底させ、進路目標を実現できる学力を身に付けさせるための取組を計画的に進めた結果、本年度も国公立大学へ2名が進学した。
- ・日常的に不祥事防止の話題に触れ、誰にでも起こす危険性があるという認識に立つよう促すとともに、年度当初に、服務規律に係る研修会を企画し、実施したことにより、教職員の不祥事防止意識を高揚し、不祥事ゼロを継続することができた。
- ・ボランティア活動への積極的な参加や献血活動への協力により、地域と連携し、開かれた学校づくりを推進することができた。
- ・総合的な学習の時間(探究活動の時間)等において、地域の人材に直接指導をしていただき、子供たちの学びの質を高めることができた。
- ・新聞やテレビ等のマスコミにより多く取り上げられることにより、本校の取組を理解していただき、保護者を始め、関係者から、高い評価を得ることができた。

## (2) 課題

- ・より多くの生徒の進路実現を図るため、早い時期から学習習慣を身に付けさせる指導を継続するとともに、これまでの個別受験指導をより一層充実させる必要がある。
- ・生徒が、校内で安心して安全に生活できるよう、継続して安全点検を徹底し、危険箇所等を早期に発見し、整備に当たる必要がある。

## 2 今後の改善方策

## (1) 生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・個別受験指導の徹底を図るため、早い段階から進路検討会議を開催し、大学等を訪問して得た情報により、推薦入試対策等の指導法を研究し、それを基に、個別受験担当者及び必要な教科指導者が連携して指導に当たる。

## (2) 保護者・地域から信頼される学校

- ・「協調学習」の研究授業を全教職員が1回実施できるようにする。

## (3) 地域とともに歩む学校

- ・学習、学校行事、部活動、ボランティア活動等に生徒自らが主体的に参加し、学校の魅力づくりに生徒自身も意欲的である。広報誌「五輪の峰」の記事を利用して、本校生徒の頑張っている姿を発信し、地域の理解を得るようにする。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

引き続き、本校の使命、課題を全教職員で共有しながら、学力の向上及び学校の魅力づくりを進めていくとともに、広く情報を発信することにより、生徒募集につなげていく。

また、地元中学校との連携を更に進め、協調学習での連携を図るにとどまらず、部活動や分掌、諸行事においても本校を身近に感じ、本校に進学することが当たり前になるよう信頼度を高めたい。

## 平成 28 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 29 年 3 月 31 日

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	---

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<p>明確で分かりやすい目標であり、達成したイメージを持つことができる。そのため、指標、計画の設定に連動して目標達成のための取組を全教職員で共通イメージを持つことができる。</p> <p>指標について、一部、現状維持またはマイナスのところもあるが、概ね適切でわかりやすい。</p> <p>計画についても、具体的で着手しやすいものである。</p> <p>前年度実績を十分分析し、達成可能な一歩上を目指す設定となっている。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<p>全般的に、具体的な活動状況が把握でき、概ね評価も適切である。</p> <p>計画の進捗状況については、把握しにくい。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<p>学力向上、進路目標の実現、規範意識の確立、交際交流、学校の魅力発信、ボランティア活動等の取組は適切で、効果的である。</p> <p>授業づくり、協調学習の推進については、さらに進めていただき、小・中学校へも研究授業を公開し、意見交流を図り、互いに協調学習の内容、質の向上を目指したい。</p> <p>体力向上については、資料からの判断が難しい。</p>
評価結果の分析の適切さ	A	<p>評価結果の分析と生徒や学校の状況とよく合致しており、適切である。</p> <p>地域とともに歩む学校の評価については、積極的な広報、情報発信と実際の生徒の行動が大きな成果として評価されている。</p> <p>詳細なアンケート分析がなされており、適切である。</p>
今後の改善方策の適切さ	A	<p>学力向上及び進路実現については、引き続き、少人数習熟度別指導や個別受験指導などの取組により、希望の進路を実現するようお願いしたい。</p> <p>協調学習の研究授業の実施については、成果と課題を具体的に記述していただきたい。</p> <p>地域貢献活動については、引き続き、地道な活動を期待している。また、その姿は、小・中学生の手本となる姿であり、地域の教育の向上にも貢献している。</p>
総合評価	A	<p>学校長の掲げた教育目標と目指す生徒像に、今の加計高校が自ら近づこうとしている。それを支える教職員の組織力を感じることができる。</p> <p>進路実現、生徒の自主的活動、地域貢献など、取組の成果が表れている。</p> <p>年間を通しての個に応じた指導が見られ、信頼度も高まっている。</p>